

玄海原子力発電所の運転状況及び 周辺環境調査結果（季報）

（令和6年1月～3月）

（令和6年8月）

佐 賀 県

はじめに

佐賀県は、九州電力株式会社との間で「原子力発電所の安全確保に関する協定書」（安全協定）を締結し、玄海原子力発電所の周辺地域住民の安全確保と周辺環境保全に万全を期しているところです。

この安全協定に基づき、佐賀県では、玄海原子力発電所の運転状況の確認を行うとともに、佐賀県及び九州電力株式会社では、環境放射能調査及び温排水影響調査を実施しています。

ここでは、令和6年1月～3月における玄海原子力発電所の運転状況及び周辺環境放射能調査結果についてとりまとめました。

令和6年8月

佐 賀 県

－ 内 容 －

I 玄海原子力発電所の運転状況

＜令和6年1月～3月＞

II 玄海原子力発電所周辺環境放射能調査結果

＜令和6年1月～3月＞

I 玄海原子力発電所の運転状況

<令和6年1月～3月>

I 目 次

1 運転状況

- (1) 運転状況（3号機、4号機）…………… I－1
- (2) 定期検査の実施状況（3号機、4号機）…………… I－1
- (3) 廃止措置の実施状況（1号機、2号機）…………… I－3

2 事故・故障等の発生

- (1) 安全協定第6条に該当する事故・故障等…………… I－5
- (2) 保全品質情報…………… I－6
- (3) その他の情報…………… I－6

3 放射性廃棄物等の管理状況

- (1) 放射性気体廃棄物の放出量…………… I－7
- (2) 放射性液体廃棄物の放出量…………… I－8
- (3) 放射性固体廃棄物の発生量及び保管量…………… I－9
- (4) 使用済燃料の管理…………… I－10

4 燃料輸送等の状況

- (1) 新燃料（取替用燃料）の搬入…………… I－11
- (2) 新燃料（未使用燃料）の搬出…………… I－11
- (3) 使用済燃料の搬出…………… I－11
- (4) 使用済燃料の構内運搬…………… I－11
- (5) 低レベル放射性廃棄物の搬出…………… I－11

1 運転状況

(1) 運転状況 (3号機、4号機)

	発電所合計	3号機	4号機
電気出力 [MW]	2,360	1,180	1,180
発電電力量 [MWh]	4,102,739	1,641,809	2,460,930
利用率 [%]	79.6	63.7	95.5

※ 1号機は平成27年4月27日、2号機は平成31年4月9日に運転終了。

(2) 定期検査の実施状況 (3号機、4号機)

① 3号機 第17回定期検査

	概要
1 実施期間	・令和5年11月10日 ~ 令和6年2月29日 [発電再開日 令和6年2月2日 停止期間 85日]
2 検査結果等の 特記事項	—
3 検査以外に実施する 主な作業等	<ul style="list-style-type: none"> ・燃料集合体193体のうち、60体を新燃料に取り替えた。 ・抽出オリフィス廻りに使用している差込み溶接継手を突き合わせ溶接継手に変更した。 ・600 ニッケル基合金を使用している原子炉容器上部ふたを耐応力腐食割れに優れた 690 ニッケル基合金を用いた原子炉容器上部ふたに取り替えた。

② 4号機 第16回定期検査

	概要
1 実施期間	・令和6年3月27日 ~ 令和6年6月28日 [発電再開日 令和6年6月3日 停止期間 69日]
2 検査結果等の 特記事項	—
3 検査以外に実施する 主な作業等	<ul style="list-style-type: none"> ・燃料集合体193体のうち、72体を新燃料に取り替えた。

(3) 廃止措置の実施状況（1号機、2号機）

① 1号機

ア 廃止措置の進捗状況

第1段階：解体工事準備期間（平成29年7月13日～令和7年度）

令和6年3月末現在

項目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度												
(1) 系統除染	▼着工（7月13日）																				
除染準備作業	■																				
装置設置		■																			
除染		■																			
片付け（装置撤去）		■																			
(2) 汚染状況の調査																					
線量当量率測定	■																				
試料採取	■	■	■	■	■	■	■	■	■												
輸送・分析・評価	■ 輸送・分析 ■ 評価																				
(3) 汚染のない設備の解体撤去	■ 高圧給水加熱器	■ 湿分分離加熱器	■ 低圧給水加熱器	■ 湿分分離加熱器	■ ドレンタンク	■ タービン建屋内機器保温材	■ 復水ブースタポンプ	■ 復水脱塩装置	■ 復水フィルタ	■ スチームコンバータ	■ SGBD熱回収装置	■ 塵芥搬送装置	■ 復水脱塩装置（中和槽）	■ バケット吊り装置	■ 排水槽排水設備	■ 脱気器/湿分分離器逃し弁	■ スクリーン洗浄ポンプ	■ バックアップポンプ	■ 主/所内変圧器	■ 循環水ポンプ	■ ロータリースクリーン
(4) 使用済燃料搬出	----- 搬出計画検討 -----																				
(5) 新燃料搬出	----- ※ -----																				

イ 汚染のない設備の解体撤去

解体廃棄物（令和6年1月～3月）

（単位：トン）

種類	発生		処分		期末保管量
	発生量	累計発生量※	処分量	累計処分量※	
金属類	0	1025.4	0	1025.4	0
コンクリート類	0	47.1	0	47.1	0
その他	0	99.4	0	99.4	0

※ 平成29年7月以降の累計

2 事故・故障等の発生

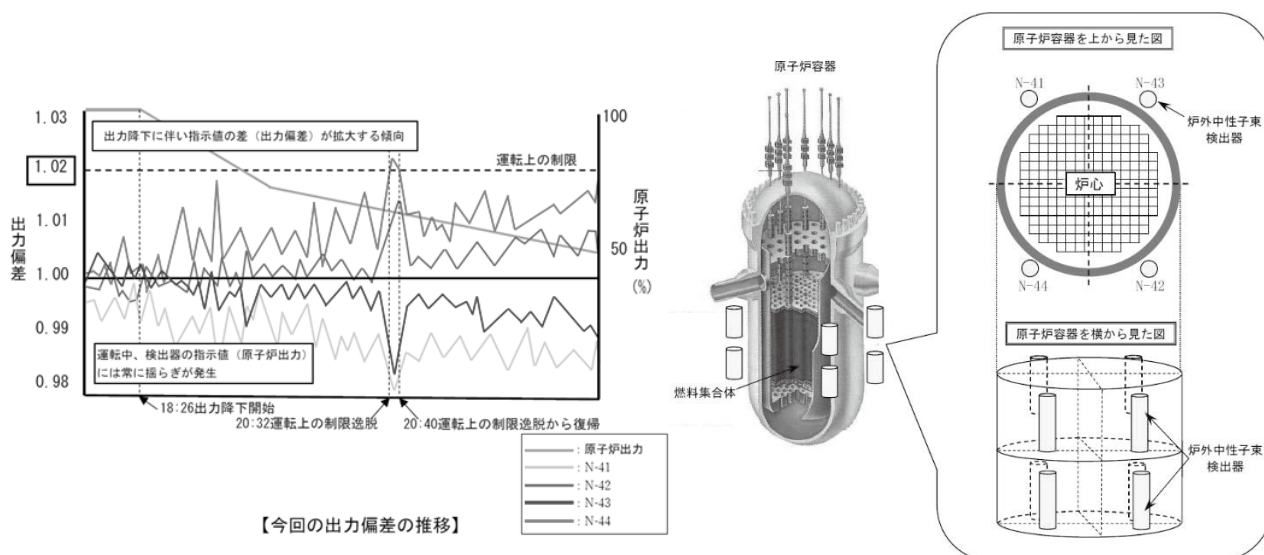
(1) 安全協定第6条に該当する事故・故障等

玄海原子力発電所4号機の出力行降下中における一時的な運転上の制限^(注1)の逸脱について

【発生年月日】令和6年3月26日

【事象の概要】

- 令和6年3月26日18時26分から第16回定期検査のため原子炉出力の降下を開始した玄海原子力発電所4号機において、20時32分に原子炉内の領域間出力が不均一になったことを示す警報（1/4炉心出力偏差の警報^(注2)）が発信し、保安規定に定める「運転上の制限」の逸脱と判断した。
- その後、20時40分に原子炉内の出力偏差が、「運転上の制限」の範囲内に戻った。
- 本事象による環境への放射能の影響はない。



$$\text{出力偏差} = \frac{\text{各位置の検出器の指示値}}{\text{4箇所の検出器の指示値の平均値}}$$

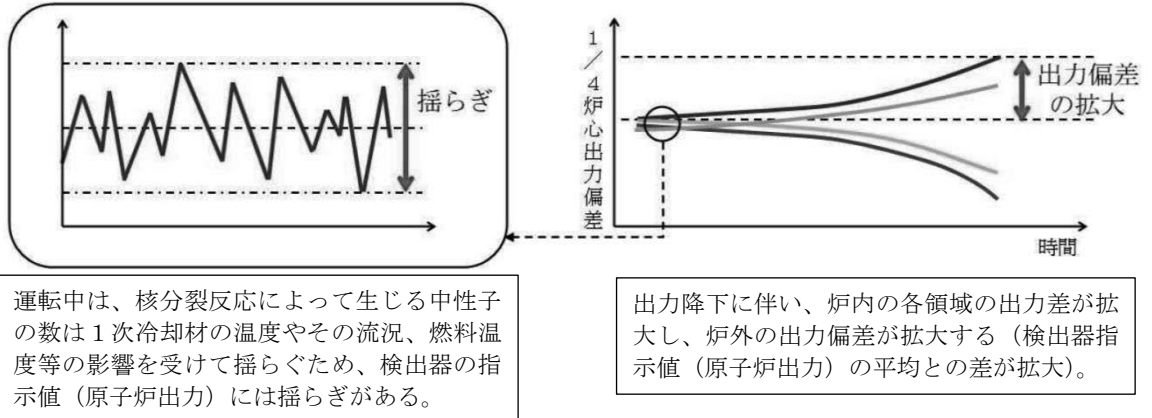
炉外中性子束検出器の位置

(注1) 保安規定において、運転の際に実施すべき事項などを定めているもの。一時的にこれを満足しない状態が発生すると、運転上の制限からの逸脱を判断し、速やかに必要な措置を行う。

(注2) 原子炉では炉心の上部と下部をそれぞれ、上から円状に見て4つの領域に分け、領域間での原子炉出力の偏差を原子炉外の検出器により測定して管理している。保安規定では、原子炉出力が50%を超える場合に、出力の偏差を一定の範囲内（1.02以下）にすることを運転上の制限としており、今回は出力降下中に一時的にこれを超える差が出たため、警報が発信した。

【推定原因】

- 各検出器の指示値（原子炉出力）には常に「①揺らぎ」が発生する。
- また、原子炉の出力降下に伴い、「②指示値の差（出力偏差）が拡大」する傾向がある。
- 今回の「①揺らぎ」と「②指示値の差（出力偏差）の拡大」は、想定している変動範囲内であったものの、それぞれが大ききな値となる状態が重なったことから、一時的に出力偏差が一定の範囲（1.02 以下）を超えたと推定される。



【①「揺らぎ」のイメージ】

【②「指示値の差（出力偏差）が拡大」のイメージ】

【対策】

- 運転中、毎月実施している原子炉内の状態測定^(注3)に加え、定期検査のための出力降下前にも原子炉内の状態測定を行い、出力降下中の原子炉の安全性に余裕があること等を確認するとともに、原則、検出器の校正^(注4)を実施する。

(2) 保全品質情報 ((1) に該当しない事象であって、電力会社や産学官で情報を共有することが有益な原子力発電所の保守・運営状況)

該当なし

(3) その他の情報 ((1) 及び (2) に該当しない事象であって、発生について九州電力が公表したもの (発煙等))

該当なし

(注3) 核分裂の状況を詳細に確認するため、原子炉内に検出器を挿入し中性子の数を測定する。

(注4) 詳細に確認した原子炉内の核分裂の状況に基づき、原子炉外の検出器を調整する。

3 放射性廃棄物等の管理状況

(1) 放射性気体廃棄物の放出量

(単位：Bq)

測定箇所等		種類	全希ガス	¹³¹ I	¹³³ I	全粒子状物質	³ H
排気筒別内訳	1号機原子炉格納容器排気筒		ND	ND	ND	ND	6.9×10^8
	1号機原子炉補助建屋排気筒		ND	ND	ND	ND	1.1×10^{10}
	2号機原子炉格納容器排気筒		ND	ND	ND	ND	1.2×10^8
	2号機原子炉補助建屋排気筒		ND	ND	ND	ND	6.2×10^9
	3号機排気筒		ND	ND	ND	ND	1.9×10^{11}
	4号機排気筒		ND	ND	ND	ND	4.9×10^{10}
	雑固体焼却設備排気筒		ND	ND	ND	ND	1.6×10^7
	燃焼式雑固体廃棄物減容処理設備排気筒		ND	ND	ND	ND	4.4×10^8
	雑固体熔融処理設備排気筒		ND	ND	ND	ND	ND
合計			ND	ND	ND	ND	2.6×10^{11}
年間放出管理目標値			1.0×10^{15}	3.0×10^{10}	—	—	—

2次系からのトリチウム放出量は、無視できる程小さいと推定される。

(注1) 放射性気体廃棄物の放出量(Bq)は、排気中の放射性物質の濃度(Bq/cm³)に排気量(cm³)を乗じて求めている。算出にあたり、放出放射能濃度の測定結果が検出限界未満の場合、放出量(Bq)はNDと表示する。

なお、それぞれの検出限界濃度は次のとおり。

- ・全希ガス 2×10^{-2} Bq/cm³ 以下
- ・¹³¹I 7×10^{-9} Bq/cm³ 以下
- ・¹³³I 7×10^{-8} Bq/cm³ 以下
- ・全粒子状物質 4×10^{-9} Bq/cm³ 以下 (⁶⁰Co で代表した値)
- ・³H 4×10^{-5} Bq/cm³ 以下

(2) 放射性液体廃棄物の放出量

(単位：Bq)

種類 測定の箇所等		全核種 (³ Hを除く)	核種別						
			⁵¹ Cr	⁵⁴ Mn	⁵⁹ Fe	⁵⁸ Co	⁶⁰ Co	¹³¹ I	¹³⁴ Cs
放水口別内訳	1、2号機 放水口	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	3、4号機 放水口	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
合計		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
年間放出管理目標値		7.5×10^{10}	—	—	—	—	—	—	—

種類 測定の箇所等		核種別					³ H
		¹³⁷ Cs	⁸⁹ Sr	⁹⁰ Sr	アルファ線を放出する放射性物質	ベータ線を放出する放射性物質	
放水口別内訳	1、2号機 放水口	ND	ND	ND	ND	ND	2.2×10^9 (—)
	3、4号機 放水口	ND	ND	ND	ND	ND	2.2×10^{13} (ND)
合計		ND	ND	ND	ND	ND	2.2×10^{13} (ND)
年間放出管理目標値		—	—	—	—	—	—

() 内は2次系からのトリチウム放出量で内数。

(注2) 放射性液体廃棄物の放出量(Bq)は、排水中の放射性物質の濃度(Bq/cm³)に排水量(cm³)を乗じて求めている。算出にあたり、放出放射能濃度の測定結果が検出限界未満の場合、放出量(Bq)はNDと表示する。

なお、それぞれの検出限界濃度は次のとおり。

- ・³Hを除く核種 2×10^{-2} Bq/cm³ 以下(⁶⁰Coで代表した値)
- ・⁸⁹Sr、⁹⁰Sr 7×10^{-4} Bq/cm³ 以下(⁹⁰Srで代表した値)
- ・アルファ線を放出する放射性物質 4×10^{-3} Bq/cm³ 以下
- ・ベータ線を放出する放射性物質 4×10^{-2} Bq/cm³ 以下
- ・³H 2×10^{-1} Bq/cm³ 以下
- ・2次冷却水系の³H 1×10^{-1} Bq/cm³ 以下

(3) 放射性固体廃棄物の発生量及び保管量

① 固体廃棄物貯蔵庫

[本：2000 ドラム缶]

種類 量	ドラム缶			その他	合計
	均質固化体	充填固化体	雑固体		
期首保管量	4,671本 (41本)	2,706本 (0本)	25,941本 (999本)	6,986本相当 (92本相当)	40,304本相当 (1,132本相当)
発生量	16本 (3本)	299本 (0本)	442本 (44本)	48本相当 (8本相当)	805本相当 (55本相当)
減少量	0本 (0本)	1,720本 (0本)	356本 (0本)	100本相当 (0本相当)	2,176本相当 (0本相当)
施設内減量 (焼却、溶融、圧縮)	0本 (0本)	0本 (0本)	356本 (0本)	100本相当 (0本相当)	456本相当 (0本相当)
施設外減量 (搬出)	0本 (0本)	1,720本 (0本)	0本 (0本)	0本相当 (0本相当)	1,720本相当 (0本相当)
期末保管量	4,687本 (44本)	1,285本 (0本)	※26,027本 (1,043本)	6,934本相当 (100本相当)	38,933本相当 (1,187本相当)
貯蔵設備容量	49,000本相当				

※ イオン交換樹脂 50本 (1000ドラム缶 99本を 2000ドラム缶 50本に換算) を含む。
() 内は 1号機及び 2号機の廃止措置に伴い発生した放射性固体廃棄物の数量で内数。

② その他の設備

種類 量	タンク等	蒸気発生器保管庫	
	イオン交換樹脂	蒸気発生器	保管容器 (原子炉容器上部ふた 及び炉内構造物を含む)
期首保管量	204 m ³ (6 m ³)	4 基 (0 基)	766 m ³ (0 m ³)
発生量	2 m ³ (0 m ³)	0 基 (0 基)	0 m ³ (0 m ³)
減少量	0 m ³ (0 m ³)	0 基 (0 基)	0 m ³ (0 m ³)
施設内減量 (焼却、溶融、圧縮)	0 m ³ (0 m ³)	0 基 (0 基)	0 m ³ (0 m ³)
施設外減量 (搬出)	0 m ³ (0 m ³)	0 基 (0 基)	0 m ³ (0 m ³)
期末保管量	206 m ³ (6 m ³)	4 基 (0 基)	766 m ³ (0 m ³)

端数処理の影響で数値が一致しない場合がある。
() 内は 1号機及び 2号機の廃止措置に伴い発生した放射性固体廃棄物の数量で内数。

③ 日本原燃（株）低レベル放射性廃棄物埋設センターへの搬出量

	均質固化体	充填固化体	合 計
搬 出 量	0 本	1,720 本	1,720 本
発電所累積搬出量	7,400 本	11,856 本	19,256 本

(4) 使用済燃料の管理

		期首保管量	期末保管量	発 生 量	搬 出 量
原子炉施設合計		2,411 体	2,456 体	45 体	0 体
原 子 炉 別 内 訳	1 号 機	352 体 ※1 (112 体)	352 体 ※1 (112 体)	0 体	0 体
	2 号 機	422 体 ※1 (168 体)	422 体 ※1 (168 体)	0 体	0 体
	3 号 機	720 体	765 体	45 体	0 体
	4 号 機	917 体 ※2 (112 体)	917 体 ※2 (112 体)	0 体	0 体

3号機の使用済燃料の期末保管量には、使用済 MOX 燃料 36 体を含む。

※1 () 内は 4 号機の使用済燃料ピットに保管している量で内数。

※2 () 内は 3 号機の使用済燃料ピットに保管している量で内数。

4 燃料輸送等の状況

(1) 新燃料（取替用燃料）の搬入

搬入年月日	集合体数	搬出元	輸送手段	原子炉名
令和6年1月24日	76体	三菱原子燃料(株)	船舶輸送	4号機

(2) 新燃料（未使用燃料）の搬出

該当なし

(3) 使用済燃料の搬出

該当なし

(4) 使用済燃料の構内運搬

該当なし

(5) 低レベル放射性廃棄物の搬出

搬出年月日	搬出数 (2000ドラム缶)	搬出先	輸送手段
令和6年2月7日	1,720本	日本原燃(株)	船舶

Ⅱ 玄海原子力発電所周辺環境放射能調査結果

<令和6年1月～3月>

Ⅱ 目 次

1 目的	Ⅱ－1
2 実施機関	Ⅱ－1
3 調査期間	Ⅱ－1
4 調査項目	
(1) 空間放射線	Ⅱ－1
(2) 環境試料中の放射能	Ⅱ－2
(3) 大気浮遊じん中の放射能	Ⅱ－2
5 調査及び評価の方法	
(1) 空間放射線	Ⅱ－3
(2) 環境試料中の放射能	Ⅱ－3
(3) 大気浮遊じん中の放射能	Ⅱ－3
6 調査結果及び評価	
(1) 空間放射線	Ⅱ－4
(2) 環境試料中の放射能	Ⅱ－8
(3) 大気浮遊じん中の放射能	Ⅱ－12
<添付資料>	
1 走行サーベイ（詳細）	Ⅱ－15
2 環境試料中の放射能（詳細）	Ⅱ－17
3 大気浮遊じん中の放射能（詳細）	Ⅱ－18
4 令和5年度第4四半期 クロスチェック結果	Ⅱ－19
5 環境試料前処理状況	Ⅱ－20
6 測定方法及び測定機器	Ⅱ－27
7 測定値の表示単位及び取扱い	Ⅱ－29
8 令和5年度第4四半期 環境放射能調査項目	Ⅱ－30

1 目的

佐賀県と九州電力株式会社では、「原子力発電所の安全確保に関する協定書」に基づき、周辺地域住民の安全確保と周辺環境の保全のため、玄海原子力発電所周辺の環境放射能調査を実施している。

また、この調査は、玄海原子力発電所からの放射性物質放出を検知した場合あるいはその可能性が否定できない場合に、その影響による被ばく線量を推定するためにも実施するが、これまでに玄海原子力発電所の影響による放射線等の異常は確認されていない。

なお、我が国における原子力施設周辺の平常の環境放射線モニタリングを規定している「平常時モニタリングについて（原子力災害対策指針補足参考資料）」（平成30年4月、原子力規制庁）においては、平常時の環境放射線モニタリングの目的について、「原子力施設の平常時の周辺環境における空間放射線量率及び放射性物質の濃度を把握しておくことにより、緊急時モニタリングに備えておくとともに、原子力施設の異常を早期に検出し、その周辺住民及び周辺環境への影響を評価すること」とされており、具体的には次の4項目に集約されている。

- ・ 周辺住民等の被ばく線量の推定及び評価
- ・ 環境における放射性物質の蓄積状況の把握
- ・ 原子力施設からの予期しない放射性物質又は放射線の放出の早期検出及び周辺環境への影響評価
- ・ 緊急事態が発生した場合への平常時からの備え

本調査は、年度ごとに上記4項目を網羅した調査計画を策定し、実施するものである。

2 実施機関

佐賀県：環境センター、唐津保健福祉事務所、東松浦農業振興センター、
玄海水産振興センター
九州電力株式会社：玄海原子力発電所

3 調査期間

令和6年1月1日から3月31日まで（令和5年度第4四半期）

4 調査項目

（1）空間放射線

- ア モニタリングポスト（NaI(Tl)シンチレーション式検出器）
- イ モニタリングポスト（電離箱式検出器）
- ウ 放水口モニタ
- エ 走行サーベイ

(2) 環境試料中の放射能

ア ガンマ線スペクトロメトリーによる核種分析

イ 放射化学分析による放射能測定

- ① 放射性ストロンチウム分析
- ② トリチウム分析

(3) 大気浮遊じん中の放射能

ア 大気浮遊じんの連続測定

イ 大気中の放射性ヨウ素濃度の測定

5 調査及び評価の方法

平常時には空間放射線、環境試料中の放射能及び大気浮遊じん中の放射能の各調査を実施する。今年度調査する項目の平常の変動範囲は次表のとおり設定する。

なお、前年度のデータ収集がない調査項目については平常の変動範囲を設定しない。

調査項目	評価対象データ	平常の変動範囲	変動範囲設定のためのデータ収集期間
空間放射線量率 (NaI(Tl)シンチレーション式検出器)	1時間平均値	地点ごとの測定値の平均値(M) ±標準偏差(σ)の3倍の範囲	過去3か年
空間放射線量率 (電離箱式検出器)	1時間平均値	地点ごとの過去の最大値	測定開始～前年度
放水口計数率	1時間平均値	地点ごとの測定値の平均値(M) ±標準偏差(σ)の3倍の範囲	過去3か年
環境試料中の放射能	^{60}Co 、 ^{131}I 、 ^{134}Cs 、 ^{137}Cs 、 ^{90}Sr 、 ^3H の放射能濃度	試料ごとの過去の放射能濃度範囲	測定開始～前年度
大気浮遊じん中の放射能	^{60}Co 、 ^{134}Cs 、 ^{137}Cs 、 ^{131}I の放射能濃度	過去の放射能濃度範囲	測定開始～前年度

測定結果が平常の変動範囲を超過した場合、次の原因調査を行い、玄海原子力発電所からの影響の有無について判断する。その結果、玄海原子力発電所からの影響があったと判断した場合には、玄海原子力発電所からの影響分の外部被ばく線量又は内部被ばく線量の推定を行う。

(原因調査項目)

- ・ 試料採取方法・処理方法、測定器の性能、測定方法等の測定条件の変化
- ・ 降雨、降雪、雷、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化
- ・ 核爆発実験等の影響
- ・ 医療・産業用の放射性同位元素等の影響
- ・ 原子力施設の運転状況の変化

(1) 空間放射線

次のアからエの検出器又は測定方法により、空間放射線量率等の連続測定を行い、測定データについては、テレメータシステムによる収集、解析を行う。

ア モニタリングポスト (NaI(Tl)シンチレーション式検出器)

空間放射線量率の連続測定、テレメータシステムによる測定データの収集、解析を行い、玄海原子力発電所周辺の空間放射線量率の変動を把握する。

イ モニタリングポスト (電離箱式検出器)

空間放射線量率の連続測定、テレメータシステムによる測定データの収集、解析を行い、緊急時への備えとして玄海原子力発電所から 30km 圏内の平常値を把握する。

ウ 放水口モニタ

放水口計数率の連続測定、テレメータシステムによる測定データの収集、解析を行い、玄海原子力発電所から放出される排水中の放射性物質の濃度変化を計数率として把握する。

エ 走行サーベイ

走行サーベイ車又はモニタリングカーで走行しながら空間放射線量率の測定を行い、緊急時への備えとして玄海原子力発電所から 30km 圏内の平常値を把握する。

(2) 環境試料中の放射能

次のア及びイの分析方法により、環境試料中の放射能測定を行い、各試料の放射能の平常値の把握、玄海原子力発電所からの影響の有無等について評価を行う。

ア ガンマ線スペクトロメトリーによる核種分析

環境試料中に含まれる放射性物質の量を把握するため、ゲルマニウム半導体検出器を用いたガンマ線スペクトロメトリーによる核種分析を行う。

イ 放射化学分析による放射能測定

環境試料中に含まれる放射性物質の量を把握するため、①放射性ストロンチウム分析法又は②トリチウム分析法による放射能測定を行う。

(3) 大気浮遊じん中の放射能

次のア及びイの測定方法により、大気浮遊じん中の放射能測定を行い、平常値の把握、玄海原子力発電所からの影響の有無等について評価を行う。

ア 大気浮遊じんの連続測定

ダストサンプラにより大気を一定期間連続吸引し、ろ紙上に大気浮遊じんを採取し、ゲルマニウム半導体検出器を用いたガンマ線スペクトロメトリーによる核種分析を行い、大気浮遊じん中に含まれる放射性物質の平常値を把握する。

イ 大気中の放射性ヨウ素濃度の測定

ヨウ素サンプラにより大気を連続吸引し、活性炭カートリッジ及びろ紙上に大気浮遊じんを採取し、ヨウ素モニタにより放射性ヨウ素の測定を行う。

測定結果は、緊急時への備えとして玄海原子力発電所から 30km 圏内の放射性ヨウ素の平常値を把握する。

6 調査結果及び評価

令和5年度第4四半期の調査結果については、一部の測定において、平常の変動範囲の上限値を超過するものがあったが、要因調査を行ったところ、玄海原子力発電所からの放射線又は放射性物質に起因するものではなかった。

また、空間放射線、環境試料中の放射能及び大気浮遊じん中の放射能の各調査において、玄海原子力発電所からの影響があったと考えられる結果は確認されなかった。

(1) 空間放射線

ア モニタリングポスト (NaI(Tl)シンチレーション式検出器)

NaI(Tl)シンチレーション式検出器によるモニタリングポスト(10局)での空間放射線量率(低線量率)の1時間平均値の連続測定結果は、次表のとおりであった。各局で平常の変動範囲の上限値を超えたものがあったが、いずれも降雨の影響によるものであり、玄海原子力発電所に起因すると考えられる放射線の異常は認められなかった。

(単位:nGy/h)

局名	月	線量率(1時間値)			平常の変動範囲		平常の変動範囲を超えたデータ数(%)	超えた要因	
		最小値	平均値	最大値	(M-3σ)	(M+3σ)			
県設置局	今村	1	26	31	70	18	42	38 (5.11)	降雨
		2	27	32	60			57 (8.19)	降雨
		3	26	30	71			32 (4.30)	降雨
	平尾	1	32	35	74	24	46	30 (4.03)	降雨
		2	32	36	61			53 (7.61)	降雨
		3	32	35	71			28 (3.76)	降雨
	串	1	31	34	76	22	45	33 (4.44)	降雨
		2	31	34	59			37 (5.32)	降雨
		3	31	33	71			27 (3.63)	降雨
	先部	1	30	33	78	20	44	36 (4.84)	降雨
		2	30	34	66			48 (6.90)	降雨
		3	30	32	74			33 (4.44)	降雨
	外津浦	1	31	33	61	24	41	34 (4.57)	降雨
		2	31	34	52			43 (6.18)	降雨
		3	30	33	60			29 (3.90)	降雨
京泊先	1	30	33	59	22	42	33 (4.44)	降雨	
	2	30	34	57			49 (7.04)	降雨	
	3	30	32	61			24 (3.23)	降雨	
九電設置局	正門南	1	23	26	52	16	34	36 (4.88)	降雨
		2	23	27	46			49 (7.12)	降雨
		3	23	26	56			33 (4.45)	降雨
	岸壁	1	21	23	46	15	31	34 (4.61)	降雨
		2	21	24	42			41 (5.92)	降雨
		3	21	23	50			31 (4.18)	降雨
	値賀崎	1	21	23	43	15	29	32 (4.34)	降雨
		2	21	23	38			39 (5.63)	降雨
		3	21	22	43			32 (4.32)	降雨
	ダム南	1	22	25	49	15	33	37 (5.04)	降雨
		2	22	25	46			44 (6.35)	降雨
		3	22	24	55			32 (4.32)	降雨

イ モニタリングポスト（電離箱式検出器）

電離箱式検出器によるモニタリングポスト（26局）での空間放射線量率（高線量率）の1時間平均値の連続測定結果は、次表のとおりであり、いずれも平常の変動範囲内にあった。

（単位:nGy/h）

局名	月	線量率(1時間値)			過去の最大値	平常の変動範囲を 超えたデータ数	超えた要因
		最小値	平均値	最大値			
今村	1	57	61	98	134	0	
	2	57	62	88		0	
	3	57	61	99		0	
平尾	1	66	68	107	134	0	
	2	66	69	94		0	
	3	65	69	102		0	
串	1	66	69	106	137	0	
	2	66	69	92		0	
	3	64	69	102		0	
先部	1	66	70	111	135	0	
	2	66	71	101		0	
	3	66	70	107		0	
外津浦	1	64	67	93	114	0	
	2	64	67	85		0	
	3	64	66	92		0	
京泊先	1	65	68	93	126	0	
	2	65	69	91		0	
	3	65	68	95		0	
屋形石	1	59	61	84	118	0	
	2	59	62	86		0	
	3	59	61	88		0	
大良	1	74	77	102	136	0	
	2	74	78	101		0	
	3	74	77	105		0	
諸浦	1	64	66	97	133	0	
	2	64	67	92		0	
	3	63	66	94		0	
入野	1	61	63	87	139	0	
	2	61	64	93		0	
	3	60	64	92		0	
寺浦	1	65	68	102	131	0	
	2	65	68	90		0	
	3	64	68	97		0	
名護屋	1	66	69	123	149	0	
	2	66	70	99		0	
	3	65	69	111		0	
石室	1	61	64	96	132	0	
	2	61	65	91		0	
	3	61	64	98		0	
加倉	1	61	64	97	137	0	
	2	61	65	97		0	
	3	60	64	104		0	

(続き)

(単位:nGy/h)

局名	月	線量率(1時間値)			過去の最大値	平常の変動範囲を 超えたデータ数	超えた要因
		最小値	平均値	最大値			
呼子	1	66	70	96	123	0	
	2	68	71	94		0	
	3	68	71	100		0	
馬渡島	1	68	70	103	128	0	
	2	67	71	99		0	
	3	67	70	104		0	
加唐島	1	72	74	105	135	0	
	2	72	75	96		0	
	3	71	74	100		0	
向島	1	65	67	101	124	0	
	2	65	69	96		0	
	3	64	67	104		0	
小川島	1	69	72	112	157	0	
	2	68	72	103		0	
	3	68	72	114		0	
二タ子	1	72	75	131	131	0	
	2	72	75	100		0	
	3	71	75	106		0	
山本	1	77	80	123	152	0	
	2	77	81	108		0	
	3	77	80	113		0	
波多津	1	74	78	106	131	0	
	2	74	78	105		0	
	3	73	77	109		0	
田野	1	73	75	109	147	0	
	2	72	76	103		0	
	3	72	75	111		0	
相知	1	70	74	122	139	0	
	2	70	74	109		0	
	3	70	74	105		0	
松浦	1	63	68	106	143	0	
	2	63	68	108		0	
	3	62	67	98		0	
立花	1	74	77	105	135	0	
	2	73	78	116		0	
	3	73	77	110		0	

ウ 放水口モニタ

放水口モニタ(3局)による計数率の1時間値の測定結果については次表のとおりであり、平常の変動範囲の上限値を超えたものがあったが、降雨及び測定装置内の付着物(海生生物等)の影響によるものであり、玄海原子力発電所に起因すると考えられる放射線の異常は認められなかった。

(単位:cpm)

局名	月	計数率(1時間値)			平常の変動範囲		平常の変動範囲を超えたデータ数(%)	超えた要因	
		最小値	平均値	最大値	(M-3σ)	(M+3σ)			
九電設置局	1、2号放水口	1	441	457	782	414	513	16 (2.17)	降雨
		2	439	459	719			24 (3.46)	降雨
		3	441	456	644			6 (0.81)	降雨
	3号放水口	1	345	353	390	339	366	2 (0.27)	降雨
		2	344	353	390			21 (3.21)	降雨
		3	344	354	411			10 (1.36)	降雨
	4号放水口	1	345	355	394	336	361	55 (7.51)	降雨等
		2	345	354	380			42 (6.37)	降雨等
		3	346	356	409			38 (5.17)	降雨等

(注1)「1、2号放水口モニタ」は「3号及び4号放水口モニタ」より計数率の変動が大きい。これは、3号機及び4号機は沖合約100~120m、水深約10~13mから海水の取水を行っているのに対し、1号機及び2号機が海面~水深約9mから取水を行っていること、また、「3号及び4号放水口モニタ」は放水管から放水を取り出し、建屋内で測定しているのに対し、「1、2号放水口モニタ」は屋外の放水口(海中)で測定していることから、降雨などによる環境放射線の変動の影響を受けやすいためと考えられる。

(注2)4号放水口モニタにおいて、降雨のない時間帯に測定値が平常の変動範囲を超えたものがあったが、調査の結果、要因の一つとして、測定装置内の付着物(海生生物等)による計数率への影響が考えられる。

エ 走行サーベイ

走行サーベイ車による空間放射線量率の連続測定結果は、次表のとおりであり、過去の測定と同程度であった。

(単位:μSv/h)

測定地点	線量率変動範囲	測定機器
発電所周辺道路 (発電所から5km~30km)	全て0.20未満 (参考:測定値範囲0.02~0.07)※	CsI(Tl)シンチレーション式検出器

※高線量域を対象とした測定器であり、精度保証範囲外(0.20μSv/h未満)は参考値とした。

(2) 環境試料中の放射能

ア ガンマ線スペクトロメトリーによる核種分析

ガンマ線スペクトロメトリーによる環境試料中の放射能測定結果は下表 a から d のとおりであり、いずれも平常の変動範囲内であった。

なお、一部の試料から、主に過去の大気中の核実験の影響によるものと考えられるセシウム 137 (^{137}Cs) が検出されたが、検出された放射性物質の量はいずれもごく微量であり、健康へ影響を与えることはない。

a 農畜産物・植物

(単位:Bq/kg 生 ただし牛乳は Bq/L)

試料名		試料数	核種名	測定結果	平常の変動範囲	超過の有無	超えた要因
葉菜	ほうれん草	1	^{60}Co	ND	ND	無	
		1	^{131}I	ND	ND	無	
		1	^{134}Cs	ND	ND	無	
		1	^{137}Cs	ND	ND ~ 0.48	無	
牛乳	牛乳	3	^{60}Co	ND	ND	無	
		3	^{131}I	ND	ND ~ 0.072	無	
		3	^{134}Cs	ND	ND	無	
		3	^{137}Cs	ND	ND ~ 0.29	無	
指標生物	松葉	2	^{60}Co	ND	ND	無	
		2	^{131}I	ND	ND	無	
		2	^{134}Cs	ND	ND	無	
		2	^{137}Cs	ND, 0.026	ND ~ 4.1	無	

b 海産生物

(単位:Bq/kg 生)

試料名		試料数	核種名	測定結果	平常の変動範囲	超過の有無	超えた要因
無脊椎動物	なまこ	2	^{60}Co	ND	ND	無	
		2	^{134}Cs	ND	ND	無	
		2	^{137}Cs	ND	ND ~ 0.19	無	
指標生物	ほんだわら類	1	^{60}Co	ND	ND	無	
		1	^{131}I	ND	ND	無	
		1	^{134}Cs	ND	ND	無	
		1	^{137}Cs	ND	ND ~ 0.19	無	

c 水

(単位:mBq/L)

試料名	試料数	核種名	測定結果	平常の変動範囲	超過の有無	超えた要因	
陸水	水道水	2	^{60}Co	ND	ND	無	
		2	^{131}I	ND	ND	無	
		2	^{134}Cs	ND	ND	無	
		2	^{137}Cs	ND	ND	無	
	河川水	1	^{60}Co	ND	ND	無	
		1	^{131}I	ND	ND	無	
		1	^{134}Cs	ND	ND	無	
		1	^{137}Cs	ND	ND	無	
	ダム水	1	^{60}Co	ND	ND	無	
		1	^{131}I	ND	ND	無	
		1	^{134}Cs	ND	ND	無	
		1	^{137}Cs	ND	ND	無	
海水	表層水 (放水口付近)	2	^{60}Co	ND	ND	無	
		2	^{131}I	ND	ND	無	
		2	^{134}Cs	ND	ND	無	
		2	^{137}Cs	1.5, 2.2	ND ~ 11	無	
	表層水 (取水口付近)	4	^{60}Co	ND	ND	無	
		4	^{131}I	ND	ND	無	
		4	^{134}Cs	ND	ND	無	
		4	^{137}Cs	ND ~ 2.1	ND ~ 11	無	

d 土

(単位:Bq/kg 乾)

試料名	試料数	核種名	測定結果	平常の変動範囲	超過の有無	超えた要因	
海底土	表層土 (放水口付近)	2	^{60}Co	ND	ND	無	
		2	^{134}Cs	ND	ND	無	
		2	^{137}Cs	ND	ND ~ 0.67	無	
	表層土 (取水口付近)	4	^{60}Co	ND	ND	無	
		4	^{134}Cs	ND	ND	無	
		4	^{137}Cs	ND	ND ~ 3.0	無	

(注 1)ND…検出下限値未満を示す。

(注 2)試料数が 2 以上で測定結果が範囲を示していない試料は、測定結果がすべて同一値である。

(注 3)昭和 61 年度に測定した環境試料の測定値については、旧ソ連原子力発電所事故(昭和 61 年 4 月 26 日発生)の影響を受けているものがあるため、平常の変動範囲は昭和 61 年度分を除いたものを記載している。

(注 4)平成 23、24 年度に測定した環境試料の測定値については、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故の影響を受けているものがあるため、平常の変動範囲は平成 23、24 年度分を除いたものを記載している。

イ 放射化学分析による放射能測定

① 放射性ストロンチウム分析

環境試料中の放射性ストロンチウム (^{90}Sr) の測定結果は下表 a から d のとおりであり、いずれも平常の変動範囲内にあった。

なお、一部の試料から、主に過去の大気中の核実験の影響によるものと考えられる放射性ストロンチウムが検出されたが、検出された放射性物質の量はいずれもごく微量であり、健康へ影響を与えることはない。

a 農畜産物・植物

(単位:Bq/kg 生)

試料名	試料数	核種名	測定結果	平常の変動範囲	超過の有無	超えた要因
葉菜 ほうれん草	1	^{90}Sr	0.037	0.036 ~ 1.3	無	
指標生物 松葉	1	^{90}Sr	0.066	ND ~ 21	無	

b 海産生物

(単位:Bq/kg 生)

試料名	試料数	核種名	測定結果	平常の変動範囲	超過の有無	超えた要因
無脊椎動物 なまこ	2	^{90}Sr	ND	ND ~ 0.15	無	
指標生物 ほんだわら類	1	^{90}Sr	0.031	ND ~ 0.37	無	

c 水

(単位:mBq/L)

試料名	試料数	核種名	測定結果	平常の変動範囲	超過の有無	超えた要因	
陸水	水道水	1	^{90}Sr	0.48	0.29 ~ 7.4	無	
	河川水	1	^{90}Sr	0.86	0.62 ~ 7.4	無	
	ダム水	1	^{90}Sr	0.80	ND ~ 15	無	
海水	表層水 (取水口付近)	2	^{90}Sr	ND, 0.84	ND ~ 7.4	無	

d 土

(単位:Bq/kg 乾)

試料名		試料数	核種名	測定結果	平常の変動範囲	超過の有無	超えた要因
海底土	表層土 (取水口付近)	2	⁹⁰ Sr	ND	ND ~ 0.18	無	

(注 1)ND…検出下限値未満を示す。

(注 2)試料数が 2 以上で測定結果が範囲を示していない試料は、測定結果がすべて同一値である。

(注 3)昭和 61 年度に測定した環境試料の測定値については、旧ソ連原子力発電所事故(昭和 61 年 4 月 26 日発生)の影響を受けているものがあるため、平常の変動範囲は昭和 61 年度分を除いたものを記載している。

(注 4)平成 23、24 年度に測定した環境試料の測定値については、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故の影響を受けているものがあるため、平常の変動範囲は平成 23、24 年度分を除いたものを記載している。

② トリチウム分析

海水・陸水中のトリチウム (³H) の測定結果は次表のとおりであり、いずれも平常の変動範囲内にあった。

(単位:Bq/L)

試料名		試料数	核種名	測定結果	平常の変動範囲	超過の有無	超えた要因
陸水	水道水	2	³ H	ND , 0.30	ND ~ 2.3	無	
	河川水	1	³ H	ND	ND ~ 2.3	無	
	ダム水	1	³ H	ND	ND ~ 1.6	無	
海水	表層水 (取水口付近)	2	³ H	ND	ND ~ 3.1	無	

(注 1)ND…検出下限値未満を示す。

(注 2)海水の放水口付近については、過去、発電所からのトリチウムの放出(管理された放出であり、法令等に定める基準以下)の影響を受け、それ以外の測定値に比べ高い値(41Bq/L)となったものがあるため、平常の変動範囲は当該値を除いたものを記載している。

(3) 大気浮遊じん中の放射能

ア 大気浮遊じんの連続測定

大気浮遊じんの連続測定結果については次表のとおりであり、平常の変動範囲内にあった。

(単位:mBq/m³)

試料名	試料数	核種名	測定結果	平常の変動範囲	超過の有無	超えた要因
大気浮遊じん	4	⁶⁰ Co	ND	ND	無	
	4	¹³⁴ Cs	ND	ND	無	
	4	¹³⁷ Cs	ND	ND ~ 0.26	無	

(注)ND…検出下限値未満を示す。

イ 大気中の放射性ヨウ素濃度の測定

大気中の放射性ヨウ素 (¹³¹I) 濃度の測定結果については次表のとおりであり、平常の変動範囲内にあった。

測定地点	発電所からの		測定 年月日	調査 機関	測定結果 (Bq/m ³)	平常の 変動範囲	超過の 有無	超えた要因
	方位	距離 (km)						
今村*	ESE	0.8	R6. 2. 1	県	ND	ND	無	

(注)ND…検出下限値未満を示す。

※モニタリングポスト今村局の局舎内に設置しているヨウ素モニタで測定を実施。

添 付 資 料

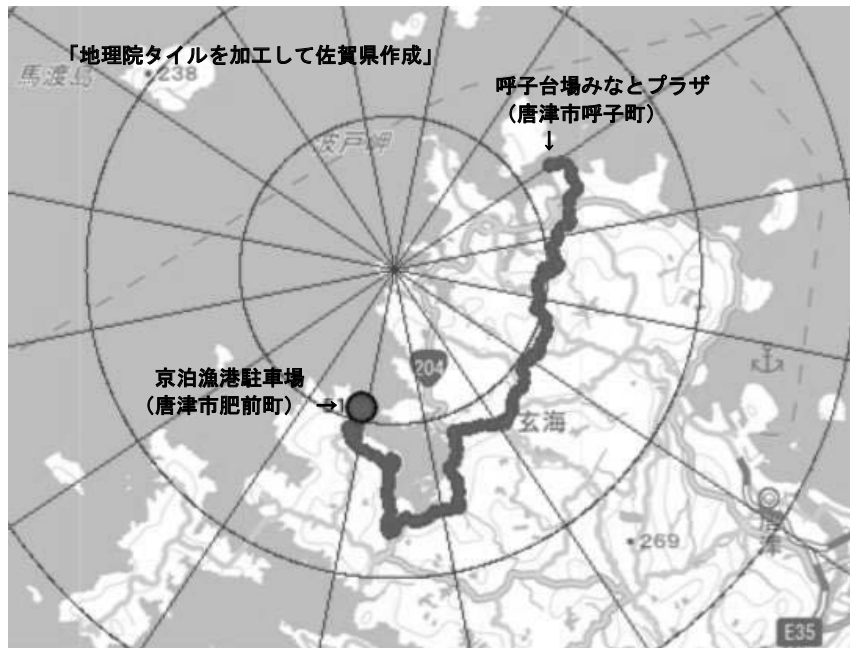
1 走行サーベイ（詳細）

(1) 発電所周辺主要道路（発電所から 5km～30km）

ア 第1ルート

測定年月日	調査機関	測定機器	測定結果 (μ Sv/h)	測定データ数
R6. 1. 26	環境センター	走行サーベイ車 (CsI(Tl)シンチレーション式検出器)	全て 0.20 未満 (参考:測定値範囲 0.03～0.06)*	156

※高線量域を対象とした測定器であり、精度保証範囲外(0.20 μ Sv/h 未満)は参考値とした。



イ 第5ルート

測定年月日	調査機関	測定機器	測定結果 (μ Sv/h)	測定データ数
R6. 2. 26	環境センター	走行サーベイ車 (CsI(Tl)シンチレーション式検出器)	全て 0.20 未満 (参考:測定値範囲 0.03～0.07)*	183

※高線量域を対象とした測定器であり、精度保証範囲外(0.20 μ Sv/h 未満)は参考値とした。



ウ 第9ルート

測定年月日	調査機関	測定機器	測定結果($\mu\text{Sv/h}$)	測定データ数
R6. 3. 4	唐津保健福祉事務所	走行サーベイ車 (CsI(Tl)シンチレーション式検出器)	全て0.20未満 (参考:測定値範囲0.02~0.05)※	364

※高線量域を対象とした測定器であり、精度保証範囲外(0.20 $\mu\text{Sv/h}$ 未満)は参考値とした。



(参考) 県走行サーベイ車

測定機器 : CsI(Tl)シンチレーション式検出器



車内に可搬型の測定機器を設置して測定

2 環境試料中の放射能（詳細）

(1) 農畜産物・植物、海産生物

試料名	採取場所	採取年月日	単位	測定者	⁶⁰ Co	¹³¹ I	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	参考核種		
										⁴⁰ K	その他※	
農畜産物・植物	ほうれん草	今村	R6. 1. 24	Bq/kg 生	九電	ND	ND	ND	ND	0.037	180	ND
	牛乳	栄	R6. 3. 19	Bq/L	県	ND	ND	ND	ND	—	49	ND
		田野	R6. 3. 19		県	ND	ND	ND	ND	—	47	ND
		浜野浦	R6. 2. 1		九電	ND	ND	ND	ND	—	51	ND
	松葉	納所	R6. 3. 18	Bq/kg 生	県	ND	ND	ND	ND	0.066	74	ND
		敷地内	R6. 2. 28		九電	ND	ND	ND	0.026	—	90	ND
海産生物	なまこ	八田浦周辺	R6. 1. 10	Bq/kg 生	県	ND	—	ND	ND	ND	21	ND
		八田浦周辺	R6. 1. 18		九電	ND	—	ND	ND	ND	21	ND
	ほんだわら類	八田浦周辺	R6. 1. 10		県	ND	ND	ND	ND	0.031	500	ND

※ その他の参考核種として、⁵⁴Mn、⁵⁹Fe、⁶⁵Zn、⁹⁵Zr 及び ¹⁴⁴Ce を測定。

(2) 陸水、海水

試料名	採取場所	採取年月日	単位	測定者	⁶⁰ Co	¹³¹ I	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	³ H	参考核種			
											⁴⁰ K	その他※		
陸水	水道水	値賀出張所	R6. 2. 27	mBq/L [³ Hは Bq/L]	県	ND	ND	ND	ND	—	0.30	49	ND	
		湊上浄水場	R6. 2. 13		県	ND	ND	ND	ND	0.48	ND	38	ND	
	河川水	志礼川	R6. 1. 16		九電	ND	ND	ND	ND	0.86	ND	58	ND	
	ダム水	敷地内	R6. 1. 9		九電	ND	ND	ND	ND	0.80	ND	100	ND	
海水	表層水 (放水口付近)	1、2号 放水口付近	R6. 1. 29	mBq/L [³ Hは Bq/L]	九電	ND	ND	ND	2.2	—	—	—	ND	
		3、4号 放水口付近	R6. 1. 29		九電	ND	ND	ND	1.5	—	—	—	ND	
	表層水 (取水口付近)	1、2号 取水口付近	R6. 3. 11		県	ND	ND	ND	ND	0.84	ND	—	—	ND
		1、2号 取水口付近	R6. 2. 13		九電	ND	ND	ND	ND	2.1	—	—	—	ND
		3、4号 取水口付近	R6. 3. 11		県	ND	ND	ND	ND	1.7	ND	ND	—	ND
		3、4号 取水口付近	R6. 2. 13		九電	ND	ND	ND	ND	1.7	—	—	—	ND

※ その他の参考核種として、⁵⁴Mn、⁵⁹Fe、⁶⁵Zn、⁹⁵Zr 及び ¹⁴⁴Ce を測定。

(3) 土壌、海底土

試料名	採取場所	採取年月日	単位	測定者	⁶⁰ Co	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	参考核種	
									⁴⁰ K	その他※
海底土	表層土 (放水口付近)	1、2号 放水口付近	Bq/kg乾	九電	ND	ND	ND	—	120	ND
		3、4号 放水口付近		九電	ND	ND	ND	—	120	ND
	表層土 (取水口付近)	1、2号 取水口付近		県	ND	ND	ND	ND	140	ND
		1、2号 取水口付近		九電	ND	ND	ND	—	150	ND
		3、4号 取水口付近		県	ND	ND	ND	ND	130	ND
		3、4号 取水口付近		九電	ND	ND	ND	—	150	ND

※ その他の参考核種として、⁵⁴Mn、⁵⁹Fe、⁶⁵Zn、⁹⁵Zr 及び ¹⁴⁴Ce を測定。

3 大気浮遊じん中の放射能（詳細）

試料名	採取場所	採取年月日	単位	測定者	⁶⁰ Co	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	参考核種	
								⁴⁰ K	その他※
大気浮遊じん	今村局	R6. 1. 1 ～R6. 1. 31	mBq/m ³	県	ND	ND	ND	0.41	ND
		R6. 2. 1 ～R6. 2. 29		県	ND	ND	ND	0.39	ND
		R6. 3. 1 ～R6. 3. 31		県	ND	ND	ND	0.43	ND
	正門南	R5. 12. 28 ～R6. 3. 29		九電	ND	ND	ND	0.46	ND

※ その他の参考核種として、⁵⁴Mn、⁵⁹Fe、⁶⁵Zn、⁹⁵Zr 及び ¹⁴⁴Ce を測定。

4 令和5年度第4四半期 クロスチェック結果

試料名	採取場所	採取年月日	測定部位	単位	測定機関		調査核種						参考核種
					県	九電	⁶⁰ Co	¹³¹ I	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	³ H	
ほうれん草	今村	R6.1.24	全体 (根を除く)	Bq/kg 生		○	ND	ND	ND	ND	0.0369	—	181
					○	—	—	—	0.0218	—	20.0		
					Enスコアの絶対値		ND	ND	ND	0.0331	—	169	
					絶対値		—	—	—	0.0198	—	17.5	
							—	—	—	0.13	—	0.46	

※ 上段：測定値、下段：拡張不確かさ

<判定基準>

En スコアの絶対値が1より大きくなった場合は、分析・測定結果について技術的な検討を行う。

X_県：県の分析・測定結果

X_{九電}：九電の分析・測定結果

U_県：県の分析・測定結果に伴う拡張不確かさ

U_{九電}：九電の分析・測定結果に伴う拡張不確かさ

$$En \text{ スコア} = \frac{X_{\text{県}} - X_{\text{九電}}}{\sqrt{U_{\text{県}}^2 + U_{\text{九電}}^2}}$$

※両機関とも「ND（検出下限値未満）」の場合は判定を行わない。

5 環境試料前処理状況

(環境センター) No.1

令和5年度 第4四半期

試料名	採取地点	採取状況			前処理						測定				
		年月日	採取方法	採取量	供試量	部位	処理法	乾重量	含水量	灰化法	灰重量	灰化率	測定区分	測定量	測定器
ほうれん草 (九州電力とのクロスチェック)	今村	R6.1.24	購入 (農家)	16000g	16000g	全体 (根を除く)	105℃ 乾燥	1314g	91.79%	乾 1127g 450℃ 灰化	213.0g	1.553%	134Cs, 137Cs, 60Co	灰 54.89g (生 3535g)	Ge(Int) 80000秒
													90Sr	灰 14.04g (生 904.2g)	LBC-4502 60分
牛乳	栄	R6.3.19	購入 (農家: 東松浦農業振興 センター)	17.90L	13.90L	原乳	105℃ 乾燥	—	—	450℃ 灰化	110.9g	0.7976 w/v%	134Cs, 137Cs, 60Co	灰 41.98g (生 5.26L)	Ge(Int) 80000秒
													131I	生 4L	Ge(Int) 80000秒
松葉	納所	R6.3.18	手摘み (上場農村青年クラ ブ連絡協議会: 東松浦農業振興セ ンター)	1953.3g	12.86L	原乳	105℃ 乾燥	—	—	450℃ 灰化	97.1g	0.7549 w/v%	134Cs, 137Cs, 60Co	灰 41.37g (生 5.48L)	Ge(Int) 80000秒
													131I	生 4L	Ge(Int) 80000秒
なまこ	八田浦 周辺	R6.1.10	手摘み (上場農村青年クラ ブ連絡協議会: 東松浦農業振興セ ンター)	1953.3g	1953.3g	葉のみ	105℃ 乾燥	960.0g	50.85%	乾 842g 450℃ 灰化	23.8g	1.389%	134Cs, 137Cs, 60Co	灰 23.25g (生 1674g)	Ge(Int) 80000秒
													90Sr	灰 13.89g (生 1000g)	LBC-4502 60分
ほんだわら類 (主として ノギリモク)	八田浦 周辺	R6.1.10	潜水夫による 漁獲 (外津漁協)	5075g	5075g	全身	105℃ 乾燥	—	—	450℃ 灰化	201.6g	3.973%	134Cs, 137Cs, 60Co	灰 83.01g (生 2089g)	Ge(Int) 80000秒
													90Sr	灰 51.80g (生 1304g)	LBC-4502 60分
ほんだわら類 (主として ノギリモク)	八田浦 周辺	R6.1.10	潜水夫による 手摘み (外津漁協)	18799g	18799g	全藻 (付着器 を除く)	105℃ 乾燥	4348g	76.87%	乾 4111g 450℃ 灰化	1284.6g	7.227%	134Cs, 137Cs, 60Co	灰 63.05g (生 872g)	Ge(Int) 80000秒
													90Sr	灰 84.76g (生 1173g)	LBC-4502 60分
ほんだわら類 (主として ノギリモク)	八田浦 周辺	R6.1.10	潜水夫による 手摘み (外津漁協)	18799g	18799g	全藻 (付着器 を除く)	105℃ 乾燥	4348g	76.87%	乾 4111g 450℃ 灰化	1284.6g	7.227%	134Cs, 137Cs, 60Co	灰 223.86g (生 968g)	Ge(Int) 80000秒
													131I	乾 223.86g (生 968g)	Ge(Int) 80000秒

(環境センター) No.2

試料名	採取地点	採取状況		前処理			測定			
		年月日	採取方法	採取量	供試量	前処理	測定区分	測定量	測定器	
陸水 (水道水)	値賀出張所	R6.2.27	蛇口水 (環境センター)	60L	20L	蒸発乾固法	^{134}Cs , ^{137}Cs , ^{60}Co	20L	Ge(Int) 80000秒	
					5L			^{131}I	5L	Ge(Int) 80000秒
					200mL			^3H	50mL	LSC-LB7 20分×50回
	淵上浄水場	R6.2.13	蛇口水 (環境センター)	160L	20L	蒸発乾固法	^{134}Cs , ^{137}Cs , ^{60}Co	20L	Ge(Int) 80000秒	
					5L			^{131}I	5L	Ge(Int) 80000秒
					100L			^{90}Sr	100L	LBC-4502 60分
				200mL	蒸発乾固法	^3H	50mL	LSC-LB7 20分×50回		

(環境センター) No.3

試料名	採取地点	採取状況		前処理			測定				
		年月日	採取方法	採取量	供試量	前	理	法	測定区分	測定量	測定器
海水 (表層水) (取水口付近)	1、2号 取水口付近 (取水口の 沖合50m) 外津浦	R6.3.11	ポンプ 吸い上げ方式 水深70～80cm (玄海水産振興 センター)	140L	20L	AMP・MnO ₂ 法			¹³⁴ Cs, ¹³⁷ Cs, ⁶⁰ Co	20L	Ge(Int) 80000秒
					5L	クエン酸銀法			¹³¹ I	5L	Ge(Int) 80000秒
				40L		イオン交換法			⁹⁰ Sr	40L	LBC-4502 60分
				200mL		蒸留法			³ H	50mL	LSC-LB7 20分×50回
	3、4号 取水口付近 (取水口の 沖合250m) 外津浦	R6.3.11	ポンプ 吸い上げ方式 水深70～80cm (玄海水産振興 センター)	140L	20L	AMP・MnO ₂ 法			¹³⁴ Cs, ¹³⁷ Cs, ⁶⁰ Co	20L	Ge(Int) 80000秒
					5L	クエン酸銀法			¹³¹ I	5L	Ge(Int) 80000秒
				40L		イオン交換法			⁹⁰ Sr	40L	LBC-4502 60分
				200mL		蒸留法			³ H	50mL	LSC-LB7 20分×50回

試料名	採取地点	採取状況		前処理						測定					
		年月日	採取方法	採取量	供試量	部位	処理法	乾重量	含水量	灰化法	灰重量	灰化率	測定区分	測定量	測定器
海底土 (表層土) (取水口付近)	1、2号 取水口付近 (取水口の 沖合50m) 外津浦	R6.3.11	採泥器による 採取 (玄海水産振興 センター)	4663.5g	4663.5g	乾土 2mm ふるい 分け	105℃ 乾燥	3060.8g	34.37%	—	—	—	¹³⁴ Cs, ¹³⁷ Cs, ⁶⁰ Co	乾 217.51g	Ge(Int) 80000秒
													⁹⁰ Sr	乾 100g	LBC-4502 60分
		R6.3.11	採泥器による 採取 (玄海水産振興 センター)	4063.7g	4063.7g	乾土 2mm ふるい 分け	105℃ 乾燥	2854.2g	29.76%	—	—	—	¹³⁴ Cs, ¹³⁷ Cs, ⁶⁰ Co	乾 249.52g	Ge(Int) 80000秒
												⁹⁰ Sr	乾 100g	LBC-4502 60分	

(環境センター) No.4

試料名	採取地点	採取状況			前処理			測定			
		年月日	採取法	採取量	供試量	灰化法	灰重量	灰化率	測定区分	測定量	測定器
大気浮遊じん	今村	R6.1.1	ダストサンブラ	総吸引量	191.6g	450°C 灰化	27.8g	14.5%	^{134}Cs , ^{137}Cs , ^{60}Co	灰 27.71g (生ろ紙 191g)	Ge(Int) 80000秒
		～ R6.1.31	(環境センター)	1.116×10^{10} $\text{cm}^3 \cdot \text{air}$							
		R6.2.1	ダストサンブラ	総吸引量	183.0g	450°C 灰化	27.5g	15.0%	^{134}Cs , ^{137}Cs , ^{60}Co	灰 26.86g (生ろ紙 179g)	Ge(Int) 80000秒
		～ R6.2.29	(環境センター)	1.044×10^{10} $\text{cm}^3 \cdot \text{air}$							
		R6.3.1	ダストサンブラ	総吸引量	193.4g	450°C 灰化	29.8g	15.4%	^{134}Cs , ^{137}Cs , ^{60}Co	灰 28.04g (生ろ紙 182g)	Ge(Int) 80000秒
		～ R6.3.31	(環境センター)	1.116×10^{10} $\text{cm}^3 \cdot \text{air}$							

(九州電力㈱) No.1

令和5年度 第4四半期

試料名	採取地点	採取状況				前処理					測定				
		年月日	採取方法	採取量	供試量	部位	処理法	乾重量	含水量	灰化法	灰重量	灰化率	測定区分	測定量	測定器
ほうれん草	今村	R6.1.24	購入 (農家)	38120g	38120g	全体 (根を 除く)	105℃ 乾燥	3130g	91.79%	乾 1560g 450℃ 灰化	311.0g	1.637%	134Cs, 137Cs, 60Co	灰 75.37g (生 4604g)	Ge(Int) 80000秒
牛乳	浜野浦	R6.2.1	購入 (畜産農家)	17.37L	21.37L	原乳	105℃ 乾燥	—	—	450℃ 灰化	131.4g	0.756 w/v%	134Cs, 137Cs, 60Co	灰 58.26g (生 7.71L)	Ge(Int) 80000秒
松葉	敷地内	R6.2.28	手摘み (九州電力㈱)	8260g	8260g	葉のみ	105℃ 乾燥	3560g	56.90%	乾 3453g 450℃ 灰化	148.8g	1.857%	134Cs, 137Cs, 60Co	灰 74.15g (生 3993g)	Ge(Int) 80000秒
なまこ	八田浦 周辺	R6.1.18	潜水夫による 漁獲 (外津漁協)	11700g	11700g	全身	105℃ 乾燥	—	—	450℃ 灰化	430.5g	3.679%	134Cs, 137Cs, 60Co	灰 117.15g (生 3184g)	Ge(Int) 80000秒

(九州電力株) No.2

試料名	採取地点	採取状況		前処理			測定		
		年月日	採取方法	採取量	供試量	前処	理法	測定区分	測定量
陸水 (河川水)	志礼川	R6.1.16	ポンプ 吸い上げ方式 表層水 (九州電力株)	260L	20L	蒸発乾固法	$^{134}\text{Cs}, ^{137}\text{Cs}, ^{60}\text{Co}$	20L	Ge(Int) 80000秒
					5L		^{131}I	5L	Ge(Int) 80000秒
					100L		^{90}Sr	100L	LBC-4602 60分
					100mL		^3H	50mL	LSC-LB8 20分×50回
陸水 (ダム水)	敷地内	R6.1.9	ポンプ 吸い上げ方式 表層水 (九州電力株)	260L	20L	蒸発乾固法	$^{134}\text{Cs}, ^{137}\text{Cs}, ^{60}\text{Co}$	20L	Ge(Int) 80000秒
					5L		^{131}I	5L	Ge(Int) 80000秒
					100L		^{90}Sr	100L	LBC-4602 60分
					100mL		^3H	50mL	LSC-LB8 20分×50回
海水 (表層水) (放水口付近)	1,2号 放水口付近 (放水口の 沖合50m) 八田浦	R6.1.29	ポンプ 吸い上げ方式 水深70~80cm (外津漁協)	60L	20L	AMP・MnO ₂ 法	$^{134}\text{Cs}, ^{137}\text{Cs}, ^{60}\text{Co}$	20L	Ge(Int) 80000秒
					5L		^{131}I	5L	Ge(Int) 80000秒
	3,4号 放水口付近 (放水口の 沖合70m) 八田浦	R6.1.29	ポンプ 吸い上げ方式 水深70~80cm (外津漁協)	60L	20L	AMP・MnO ₂ 法	$^{134}\text{Cs}, ^{137}\text{Cs}, ^{60}\text{Co}$	20L	Ge(Int) 80000秒
					5L		^{131}I	5L	Ge(Int) 80000秒
海水 (表層水) (取水口付近)	1,2号 取水口付近 (取水口の 沖合50m) 外津浦	R6.2.13	ポンプ 吸い上げ方式 水深70~80cm (外津漁協)	60L	20L	AMP・MnO ₂ 法	$^{134}\text{Cs}, ^{137}\text{Cs}, ^{60}\text{Co}$	20L	Ge(Int) 80000秒
					5L		^{131}I	5L	Ge(Int) 80000秒
	3,4号 取水口付近 (取水口の 沖合250m) 外津浦	R6.2.13	ポンプ 吸い上げ方式 水深70~80cm (外津漁協)	60L	20L	AMP・MnO ₂ 法	$^{134}\text{Cs}, ^{137}\text{Cs}, ^{60}\text{Co}$	20L	Ge(Int) 80000秒
					5L		^{131}I	5L	Ge(Int) 80000秒

(九州電力株) No.3

試料名	採取地点	採取状況			前処理						測定				
		年月日	採取方法	採取量	供試量	部位	処理法	乾重量	含水量	灰化法	灰重量	灰化率	測定区分	測定量	測定器
海底土 (表層土) (放水口付近)	1、2号 放水口付近 (放水口の 沖合50m) 八田浦	R6.1.29	潜水夫による 採取 海底表層土 (外津漁協)	2360g	2360g	乾土 2mm ふるい 分け	105℃ 乾燥	1440g	38.98%	—	—	—	¹³⁴ Cs, ¹³⁷ Cs, ⁶⁰ Co	乾 184.88g	Ge(Int) 80000秒
		R6.1.29	円筒型 ドレヅジ式 採泥器 (九州電力株)	4050g	4050g	乾土 2mm ふるい 分け	105℃ 乾燥	2590g	36.05%	—	—	—	¹³⁴ Cs, ¹³⁷ Cs, ⁶⁰ Co	乾 210.00g	Ge(Int) 80000秒
海底土 (表層土) (取水口付近)	1、2号 取水口付近 (取水口の 沖合50m) 外津浦	R6.2.13	円筒型 ドレヅジ式 採泥器 (九州電力株)	2110g	2110g	乾土 2mm ふるい 分け	105℃ 乾燥	1230g	41.71%	—	—	—	¹³⁴ Cs, ¹³⁷ Cs, ⁶⁰ Co	乾 182.21g	Ge(Int) 80000秒
		R6.2.13	円筒型 ドレヅジ式 採泥器 (九州電力株)	2920g	2920g	乾土 2mm ふるい 分け	105℃ 乾燥	2120g	27.40%	—	—	—	¹³⁴ Cs, ¹³⁷ Cs, ⁶⁰ Co	乾 222.99g	Ge(Int) 80000秒

試料名	採取地点	採取状況			前処理			測定			
		年月日	採取法	採取量	供試量	灰化法	灰重量	灰化率	測定区分	測定量	測定器
大気浮遊じん (ステーション ろ紙)	正門南	R5.12.28 ～ R6.3.29	連続エア- サンブラ (九州電力株)	総吸引量 3.304×10 ¹⁰ cm ³ ・air	606.1g	450℃灰化	91.9g	15.163%	¹³⁴ Cs, ¹³⁷ Cs, ⁶⁰ Co	灰 23.34g (生ろ紙 154g)	Ge(Int) 80000秒

6 測定方法及び測定機器

調査項目		調査機関	測定法	測定器	
				佐賀県	九州電力
空間放射線	空間放射線量率 (モニタリングポスト)		固定型モニタリングポスト (県・九電)、放水口モニタ (九電) による連続測定 (テレメータシステム)	NaI(Tl)シンチレーション式検出器 3"φ×3"円柱型 (温度補償・エネルギー補償回路付) 日立アロカメディカル (多重波高分析器付) MSR-R69-22234	NaI(Tl)シンチレーション式検出器 2"φ×2"円柱型 (温度補償・エネルギー補償回路付) 富士電機 NDS3AAA2-BYYYY-S
	放水口計数率 (放水口モニタ)		「連続モニタによる環境γ線測定法」(平成29年改訂 原子力規制庁) に準ずる。	電離箱式検出器 14L 球形加圧型 (N ₂ +Ar ガス) 日立アロカメディカル MSR-R69-21090R1 MSR-R69-22205	NaI(Tl)シンチレーション式検出器 3"φ×3"円柱型 富士電機 N16E-116
	空間放射線量率 (走行サーバイカー、モニタリングカー)		車載型検出器による連続走行測定 「連続モニタによる環境γ線測定法」(平成29年改訂 原子力規制庁) に準ずる。	CsI(Tl)シンチレーション式検出器 2"φ×2"円柱型 シリコンダイオード検出器 (エネルギー補償回路付) ミリオンテクノロジーズ HDS-101G	NaI(Tl)シンチレーション式検出器 3"φ×3"円柱型 (温度補償・エネルギー補償回路付) 日立製作所 ADP-1132
環境試料中の放射能	ガンマ線放出核種 ・ ⁶⁰ Co ・ ¹³¹ I ・ ¹³⁴ Cs ・ ¹³⁷ Cs		「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー」(令和2年改訂 原子力規制庁) 及び「放射性ヨウ素分析法」(平成8年改訂 文部科学省) に準ずる。	高純度ゲルマニウム半導体検出器 オルテック GEM30-70-LB-C-HJ GEM-C8065-LB-C-HJ-S** キャンベラジャパン GX4018-7915-30ULB** 多重波高分析器 セイコー・イージーアンドジー MCA-7a MCA-7** キャンベラジャパン DSA-1000**	高純度ゲルマニウム半導体検出器 キャンベラジャパン GC3018 多重波高分析器 セイコー・イージーアンドジー MCA-7a
	ストロンチウム90 (⁹⁰ Sr)		「放射性ストロンチウム分析法」(平成15年改訂 文部科学省) に準ずる。	低バックグラウンド放射能自動測定装置 日立製作所 LBC-4502 キャンベラジャパン LB4200**	低バックグラウンド放射能自動測定装置 日立製作所 LBC-4602
	トリチウム (³ H)		「トリチウム分析法」(令和5年改訂 原子力規制庁) に準ずる。	低バックグラウンド液体シンチレーション計数装置 日立製作所 LSC-LB7	低バックグラウンド液体シンチレーション計数装置 日立製作所 LSC-LB8

※ 分析委託先(一般財団法人九州環境管理協会)が使用。

(続き)

調査項目		調査機関	測定法	測定器	
				佐賀県	九州電力
大気浮遊じん中の放射能	ガンマ線放出核種 ・ ⁶⁰ Co ・ ¹³⁴ Cs ・ ¹³⁷ Cs		<ul style="list-style-type: none"> ・捕集 県：ダストサンプラで1か月吸引し、ろ紙上に捕集後灰化 九電：エアーサンプラで3か月吸引し、ろ紙上に捕集後灰化 ・測定 環境試料中の放射能-ガンマ線放出核種と同様 	<ul style="list-style-type: none"> ・捕集 ダストサンプラ 応用光研工業 S-3063 ・測定 高純度ゲルマニウム半導体検出器 オルテック GEM30-70-LB-C-HJ 多重波高分析器 セイコー・イージーアンドジー MCA-7a 	<ul style="list-style-type: none"> ・捕集 ダストサンプラ 富士電機 NAD-TA7C5463C01 ・測定 高純度ゲルマニウム半導体検出器 キャンベラジャパン GC3018 多重波高分析器 セイコー・イージーアンドジー MCA-7a
	放射性ヨウ素 ・ ¹³¹ I (可搬型ヨウ素モニタ)		約0.25m ³ 吸引後測定「全ベータ放射能測定法」(昭和51年改訂 文部科学省)に準ずる。	ヨウ素サンプラ アロカ DSM-R60 ヨウ素モニタ NaI(Tl)シンチレーション式検出器 2"φ×2"円柱型 アロカ ADP-1122	ヨウ素サンプラ 日立製作所 DSM-362BU3R1 ヨウ素モニタ NaI(Tl)シンチレーション式検出器 2"φ×2"円柱型 日立製作所 ADP-1122
	放射性ヨウ素 ・ ¹³¹ I (今村局)		約0.5m ³ 吸引後測定「全ベータ放射能測定法」(昭和51年改訂 文部科学省)に準ずる。	ヨウ素サンプラ 応用光研工業 S-3064 ヨウ素モニタ NaI(Tl)シンチレーション式検出器 2"φ×2"円柱型 応用光研工業 MSP-20S	

(注) メーカー名は購入時。

7 測定値の表示単位及び取扱い

測定項目		単位	測定値の取扱い
空間放射線量率	モニタリングポスト		nGy/h
	走行サーベイ	九州電力	nGy/h
		佐賀県	μ Sv/h
放水口計数率			cpm
環境試料中の放射能	ガンマ線 放出核種 ストロンチウム 90	農産物	Bq/kg 生
		植物	Bq/kg 生
		牛乳	Bq/L
		海産生物	Bq/kg 生
		土壌・海底土	Bq/kg 乾
		陸水・海水	mBq/L
	トリチウム	陸水・海水	Bq/L
大気浮遊じん中の放射能	核種分析	mBq/m ³	
	放射性ヨウ素	Bq/m ³	

表示は整数とする。

表示は小数点以下 2 桁とする。
0.20 μ Sv/h 未満の測定値は、測定器の測定精度保証範囲外であるため参考値とする。

表示は整数とする。

有効数字は 2 桁とする。
検出下限値は次の通りとする。

$3 \times \Delta N$
 ΔN は放射能の計数誤差とする。

検出下限値未満の測定値は「ND」と表示する。
「-」は調査計画外を示す。

8 令和5年度第4四半期 環境放射能調査項目

(1) 空間放射線

項目	佐賀県	九州電力
モニタリングポスト(NaI(Tl)シンチレーション式)	6 地点	4 地点
モニタリングポスト(電離箱式)	26 地点	-
放水口モニタ(NaI(Tl)シンチレーション式)	-	3 地点
走行サーベイ(CsI(Tl)シンチレーション式)	発電所から 5km~30 km	-

(2) 環境試料中の放射能

測定試料	試料名	採取場所	測定者		核種分析				
			県	九電	γ ※	^{131}I	^{90}Sr	^3H	
農畜産物・植物	葉菜	ほうれん草	今村	○	1	1	1		
	牛乳	牛乳	栄	○	1	1			
			田野	○	1	1			
			浜野浦		○	1	1		
	指標生物	松葉	納所	○		1	1	1	
敷地内				○	1	1			
海産生物	無脊椎動物	なまこ	八田浦周辺	○		1		1	
				○	1		1		
指標生物	ほんだわら類		○		1	1	1		
	水	陸水	水道水	値賀出張所	○		1	1	
湧上浄水場				○		1	1	1	1
河川水			志礼川		○	1	1	1	1
ダム水			敷地内		○	1	1	1	1
海水	表層水	1、2号放水口付近		○	1	1			
				○	1	1			
		1、2号取水口付近	○		1	1	1	1	
				○	1	1			
		3、4号取水口付近	○		1	1	1	1	
				○	1	1			
土	海底土	表層土	1、2号放水口付近		○	1			
					○	1		1	
		1、2号取水口付近	○		1		1		
				○	1				
		3、4号取水口付近	○		1		1		
				○	1				

※ ガンマ線放出核種として、 ^{60}Co 、 ^{134}Cs 及び ^{137}Cs を測定。

(3) 大気浮遊じん中の放射能

測定方法	採取場所	測定者		測定項目	
		県	九電	γ ※	^{131}I
ダストサンプラで連続捕集し、回収したろ紙を灰化後、核種分析測定	今村	○		3	
	正門南		○	1	
ヨウ素モニタで捕集、測定	今村	○			1

※ ガンマ線放出核種として、 ^{60}Co 、 ^{134}Cs 及び ^{137}Cs を測定。

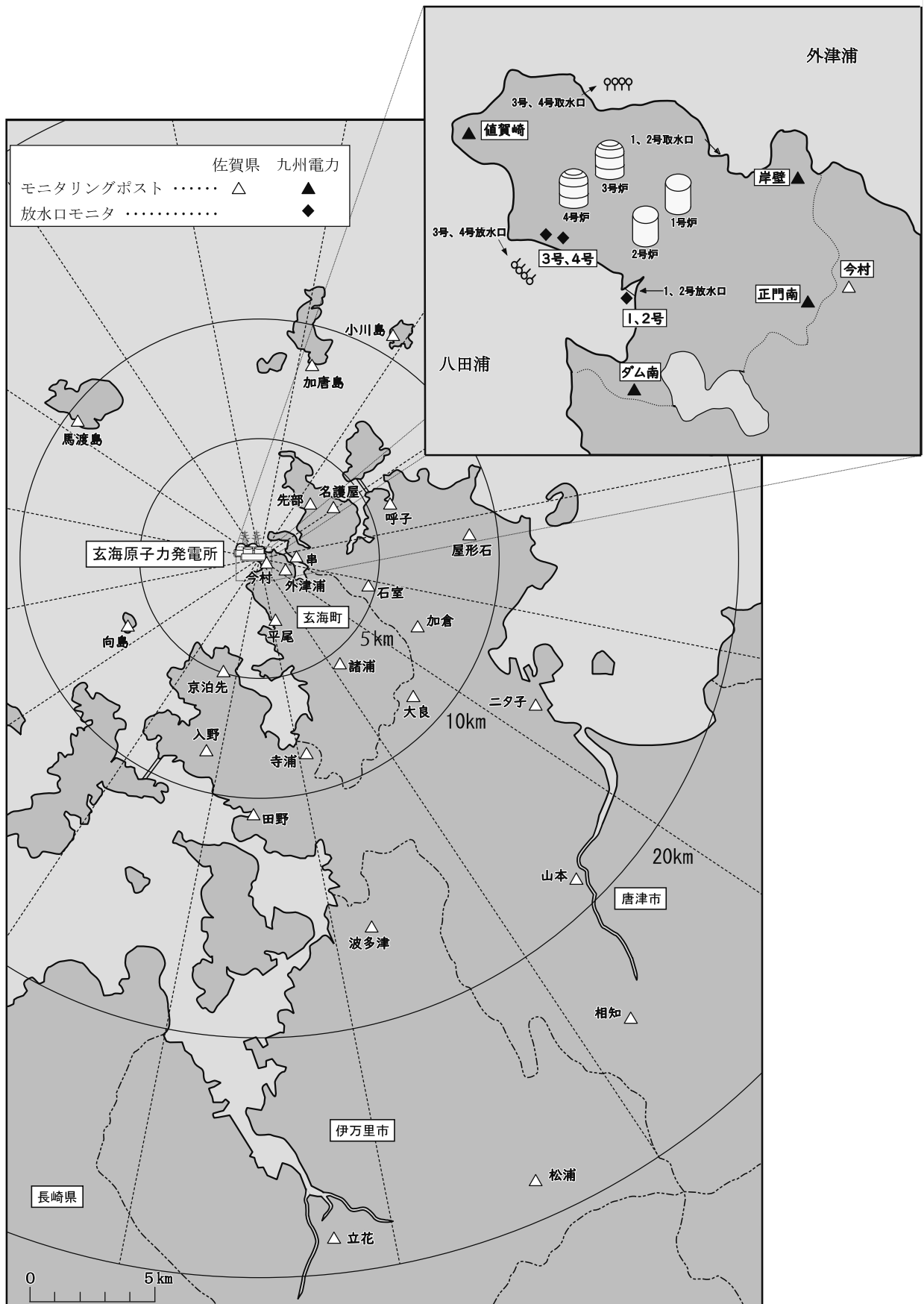


図1 空間放射線測定地点

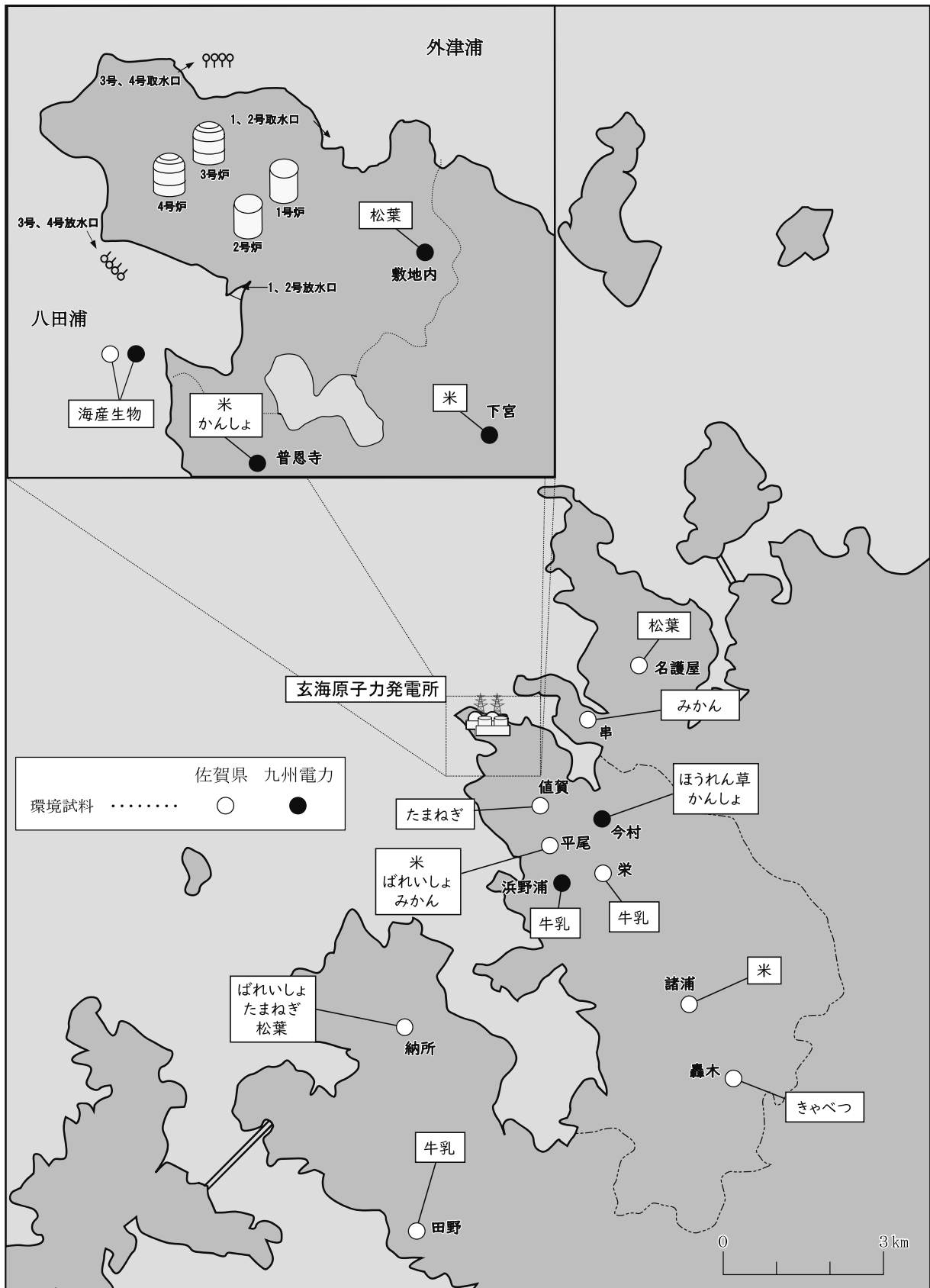


図2 環境試料採取地点（農畜産物・植物、海産生物）

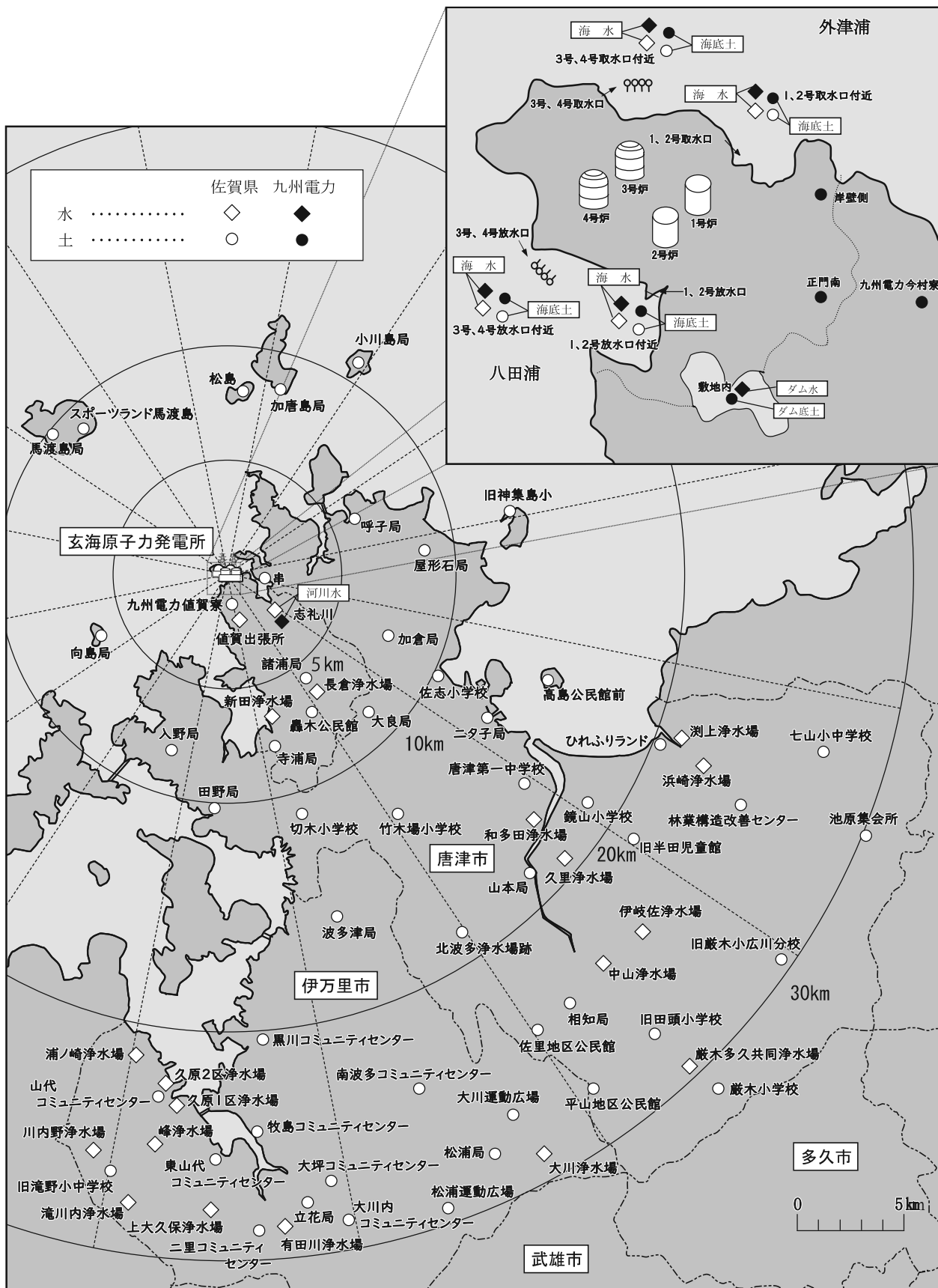


図3 環境試料採取地点（水、土）

放射線の単位について

単位	読み	意味
cpm	シーピーエム	<ul style="list-style-type: none"> ・ カウントパーミニッツ(カウント/分)の略。 ・ 調査結果では、1分間に放射線測定装置で測定される放射線の数を表す。
Bq	ベクレル	<ul style="list-style-type: none"> ・ 放射能の強度又は放射性物質の量を表す単位。 ・ 1秒間に1個の原子核が崩壊して放射線を出す物質の放射能強度又は放射性物質の量を1Bqという。 ・ 調査結果では、測定試料の単位重量(単位体積)当たりの放射能強度又は放射性物質の量を示している。(Bq/kg、Bq/L、Bq/m³など)
Gy	グレイ	<ul style="list-style-type: none"> ・ ある物質が放射線を受けて吸収したエネルギー量を表す単位。 ・ 物質1kg当たり1J(ジュール)のエネルギー吸収があるときの放射線量を1Gyという。 ・ 調査結果では、測定地点における1時間当たりの空気の吸収エネルギー量を示している。(Gy/h)
Sv	シーベルト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 放射線が人体に及ぼす影響の度合いを表す単位。 ・ γ(ガンマ)線、β(ベータ)線では、$1\text{Gy} = 1\text{Sv}$ ・ α(アルファ)線では、$1\text{Gy} = 20\text{Sv}$ ・ 調査結果では、測定地点における1時間当たりの放射線量を示している。(Sv/h)

接頭語

記号	読み	意味
m	ミリ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本となる単位の前に付く接頭語で、千分の一(10^{-3})を表す。 ・ 1mGyは、1Gyの千分の一($1\text{Gy} = 1,000\text{mGy}$)。
μ	マイクロ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本となる単位の前に付く接頭語で、百万分の一(10^{-6})を表す。 ・ $1\mu\text{Gy}$は、1Gyの百万分の一($1\text{Gy} = 1,000,000\mu\text{Gy}$)。
n	ナノ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本となる単位の前に付く接頭語で、十億分の一(10^{-9})を表す。 ・ 1nGyは、1Gyの十億分の一($1\text{Gy} = 1,000,000,000\text{nGy}$)。

令和6年8月

佐 賀 県 県 民 環 境 部
原 子 力 安 全 対 策 課

〒840-8570

佐賀県佐賀市城内一丁目1番59号

TEL (0952) 25-7081 (直通)

FAX (0952) 25-7269

<インターネットによる情報公開>

本県の原子力行政に関する情報などは、佐賀県庁ホームページ(<https://www.pref.saga.lg.jp/>)の
トップページにあるバナー「佐賀県の原子力安全行政」で公開しています。



